

2021年10月 編集:国際開発救援財団

事業運営ハンドブックを作成、事業運営方針を合意しました

ベトナムでは今年4月下旬より新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各地で厳しいロックダウンが行われました。特に7月からの国内ロックダウンは、今までで最も長く、そして厳しいものとなりました。10月に入り、次第にロックダウンの緩和・解除が進み、一時は感染者数が減少する傾向も見受けられましたが、現在は、再び陽性者は増加傾向にあり、ソンラ省においても、まだ気を許せない状況が続いています。そのような中でも、コーヒーの収穫が本格的にはじまり、人々は毎日、明るく作業をしています！

現在、FIDRはタイバック大学の事業担当者とオンラインでつなぎ、今後2年間の事業運営方針や活動のアクションプランの策定を進めています。10月には事業運営ハンドブックが完成し、プロジェクトの実施・運営・管理における責任と役割を明確にするとともに、活動の実施方法や予算実績管理等についても合意がなされました。いよいよ11月から事業活動が始まります！



PURPOSE OF THIS GUIDELINES

- In the light of expecting better results for Son La Project, Foundation for International Development Relief (FIDR) and Tay Bac University (TBU) discussed and agreed on issuing this guideline with a confidence that, all the stakeholders shall be able to run the project more effectively.
- This guidelines is made to set regulations, guidance for stakeholders to follow and refer to in the period of project implementation.

作成中の事業運営ハンドブック

「最強ロックダウン」真っ最中の現地の様子

4月下旬より始まった新型コロナウイルス第4波により、ハノイやホーチミンを中心とした都市部では、新規陽性者が急激に増え、FIDRベトナムの事務所のあるダナンを含めたベトナム5大都市において、最も厳しいロックダウンが行われました。

週1回程度の最低限の買い物を除き、外出した人には、約5000円から1万5000円の罰金が課される他、マスクの着用の有無や様々な罰則が設けられました。

F0(エフゼロ)と呼ばれる陽性者が最も多い地域の居住者全員を対象として、3日に1回PCR検査を受けなければならないなど、様々な措置がとられましたものの、陽性者はなかなか減らず、大都市圏では何度もロックダウンが延長となりました。

外出できない日々が続く中、最も難しいのは、毎日の食料や生活用品の確保です。種類や量ともに制限がある中、都市に住む人々に対して、農村地域から野菜等の寄付があり、近所や周りの人々と食品をシェアするなど、みんな助け合い、乗り越えました。FIDRの活動対象地域の人々も、どんな状況にも負けず、自分たちの地域でできる限り活動を進めています。FIDRは彼らの活動を引き続き応援します♪



青空の下でのPCR検査



食料の配布